



2023年4月26日
東日本旅客鉄道株式会社
八王子支社

東北の祭りが大集合！！三鷹駅・武蔵小金井駅・国分寺駅にて『第3回東北フェス』を開催！ ～跳ねる！踊る！奏でる！～

○JR東日本八王子支社では青森県青森市・秋田県秋田市・岩手県盛岡市やJR東日本盛岡支社・秋田支社と連携し三鷹駅・武蔵小金井駅・国分寺駅の3駅で北東北3県をPRする東北フェスを開催します。

○東日本大震災からの復興へ向けて再建途中であった東北エリアは他のエリアと同様に新型コロナウイルス感染症により打撃を受けました。東北への旅行需要を回復させたいという三鷹駅・武蔵小金井駅・国分寺駅社員の想いから、第1回、第2回と積み重ねてきた「東北フェス」をスケールアップして開催します。

○三鷹駅では「青森ねふた祭 囃子（はやし）・跳人披露」、武蔵小金井駅では「ミスさんさ踊り」による「盛岡さんさ踊り演舞」、国分寺駅では「津軽三味線の演奏」を行います。

○普段は現地でしか見ることができない祭りの演舞や楽器の演奏を実際に体感できる貴重なイベントです。その他にも東北の魅力を感じられるイベントを多数開催します。

この機会に3駅を巡って東北の魅力を感じ、東北の旅に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

1 開催日程

青森ねふた祭 囃子・跳人披露	2023年5月21日（日）
盛岡さんさ踊り演舞	
津軽三味線の演奏	
東北ゆかりのグッズラリー	
祭の衣装で記念撮影コーナー	
跳人の腰吊り鈴作りワークショップ	
青森の特産品販売	2023年5月20日（土）・21日（日）
東北の展示品設置	2023年5月11日（木）～5月21日（日）



【青森ねふた祭】



【盛岡さんさ踊り】



【秋田竿燈まつり】



【津軽三味線の演奏】



【鈴作りワークショップ】

2 東北の祭りにまつわる演舞や楽器演奏の内容

第1回・第2回東北フェスに参加いただいた3つの自治体が勢揃いし、熱く燃える夏の東北へ今年は是非来て欲しいという東北の想いを三鷹エリアでかたちにします。東北の各地に根付いてきた祭文化や伝統芸能を今も受け継ぐ皆さまを各駅にお招きして、披露いただきます。本物の「技」を通じて東北の空気を味わっていただけます。

(1) 青森ねぶた祭 囃子・跳人披露

三鷹駅にて青森ねぶた祭 囃子・跳人を披露します。

日本だけに留まらず世界各地から270万人もの観光客を迎え華やかに開催される「青森ねぶた祭」。イベント当日はミスねぶた、跳人が来駅し、青森ねぶた祭 囃子・跳人を披露します。演舞を通じて跳人の力強さや迫力をお楽しみください。

開催日：5月21日（日）

場 所：三鷹駅みどりの窓口前

時 間：1回目 10：40～11：00

2回目 12：20～12：40

※公演時間は約20分間です。



※国鉄提供（公益）青森県観光コンベンション協会

(2) 盛岡さんさ踊りの演舞

武蔵小金井駅にて盛岡さんさ踊りの演舞を行います。

例年100万人以上の来場者が訪れ東北を代表する祭りの1つである「盛岡さんさ踊り」。イベント当日はミスさんさ踊り、ミス太鼓、ミス横笛が来駅し、盛岡さんさ踊りを実演します。踊りを通じてぜひ盛岡の魅力をお楽しみください。

開催日：5月21日（日）

場 所：nonowa 武蔵小金井（武蔵小金井駅）
ムサコガーデン内 nonowa Roof

時 間：1回目 14：00～14：20

2回目 15：00～15：20

※公演時間は約20分間です。



(3) 津軽三味線の演奏

国分寺駅にて津軽三味線の演奏を行います。

演奏していただく澤田壽仁氏はテレビやラジオへの出演や学校公演・学校教材など多方面で活動し、国内公演はもちろんのこと、海外公演なども多数行っています。津軽三味線独特の音色をぜひお楽しみください。

開催日：5月21日（日）

場 所：国分寺駅券売機前

時 間：1回目 11：30～11：50

2回目 13：10～13：30

※公演時間は約20分間です。



澤田 壽仁(サワダ ヒサヒト)氏

2017年第29回津軽三味線全日本金木大会優勝

2019年第22回津軽三味線コンクール全国大会優勝

3 東北の展示品設置と東北ゆかりのグッズラリー

青森ねぶた祭のミニねぶた、秋田竿燈まつりのミニ竿燈・実物大の提灯、岩手県のPRキャラクターそばっちのぬいぐるみを3駅の改札口周辺やみどりの窓口に設置します。
また、東北ゆかりのグッズが手に入るラリーを開催します。

【そばっち】



©わんこきょうだい

(1) 東北の展示品設置

設置期間：5月11日（木）～5月21日（日）

設置場所	三鷹駅改札周辺	武蔵小金井駅改札周辺	国分寺駅みどりの窓口内
展示内容	ミニねぶた	そばっちのぬいぐるみ	竿燈まつりミニ竿燈・実物大の提灯
展示時間	初電～終電	初電～終電	8：00～20：00

(2) 東北ゆかりのグッズラリー

【参加方法】

- ① 三鷹駅・武蔵小金井駅・国分寺駅をめぐり以下のA・Bの両方の条件を達成する。
※A・Bの達成順序は問いません。
A 3駅の改札周辺・みどりの窓口に設置してある東北ゆかりの展示品と自身が一緒に写った写真を3駅すべてで撮影する。
B 三鷹駅構内臨時店舗 AoMoLink～赤坂～（アオモリンク）で税込み200円以上の買い物をしたレシートを入手する。
- ② 三鷹駅券売機前の専用ブースで係員に「展示品と自身が写った写真」と「購入商品のレシート」を見せて東北グッズを手に入れる。



【青森ねぶた祭 幸運の鈴】



【津軽 クリアファイル】



【盛岡さんさ踊り クリアファイル】



【わんこきょうだいシール】



【秋田竿燈まつり クリップ】



【秋田犬缶/バッジ】

【青森の特産品販売】

開催日：5月20日（土）・21日（日）

場 所：三鷹駅構内臨時店舗 AoMoLink～赤坂～（アオモリンク）

時 間：10：00～21：00

東北グッズ配布時間：5月21日（日） 11：00～16：00

※おひとり様一回限りの参加です。

※レシートは5月20日（土）と5月21日（日）どちらのレシートも対象となります。

※レシート金額の合算や分割はできません。

※展示品との自撮り撮影は5月21日（日）以前に撮影した写真も対象となります。

※グループで写真を撮影した場合、1枚の写真で写真に写っている方と撮影者を対象とすることができます。

※レシートは東北グッズを希望する人数分ご用意ください。

4 青森ねぶた祭 跳人の腰吊り鈴 ワークショップ

「青森ねぶた祭 跳人の腰吊り鈴」作成が体験できるワークショップを開催します。

跳人の鈴は「幸運の鈴」と呼ばれ、跳人の衣装から落ちた鈴を拾うと「その人には幸せが訪れる」と言われています。

開催日：5月21日（日）

場 所：三鷹駅（アトレヴィ三鷹改札内4階）

時 間：11：00～16：00

参加費：400円（税込み）

※別途改札内に入場するには人数分の入場券が必要です。

※小さなお子さまでも簡単に作れます。



第1回ねぶたフェス開催時のワークショップの様子

5 祭りの衣装を着て記念撮影ができるコーナー

武蔵小金井駅にて実際に祭りの衣装や小道具を使用して記念撮影ができるコーナーを設置します。

開催日：5月21日（日）

場 所：武蔵小金井駅券売機横

時 間：11：00～16：00

参加費：無料

【貸出内容】

- ・青森ねぶた祭 跳人の花笠
- ・秋田竿燈まつり ミニ竿燈
- ・盛岡さんさ踊り 花笠と太鼓

※この他にも多数ご用意しております。



【青森ねぶた祭 跳人の花笠】



【秋田竿燈まつり ミニ竿燈・はっぴ】



6 青森の特産品販売

三鷹駅の臨時店舗にて青森の特産品を販売します。

販売は2016年に東京赤坂にオープンした青森のアンテナショップ AoMoLink～赤坂～（アオモリンク）が期間限定で出店します。普段三鷹エリアでは取り扱っていない商品をぜひご覧ください。

開催日：5月20日（土）・21日（日）

場 所：三鷹駅構内臨時店舗 AoMoLink～赤坂～（アオモリンク）

時 間：10：00～21：00

（商品一例）



【あおもりりんご缶詰】



【長尾 中華そば】



【ほたてみそ汁】



【りんごお菓子】

7 その他

- ・ワークショップ・東北グッズは先着順です。なくなり次第、終了となります。
- ・改札内に入るためには、入場券が必要です。
- ・掲載内容は予告なく変更または中止となる場合があります。
- ・写真、イラストはすべてイメージです。

【別紙】 祭りの情報など

【青森ねぶた祭とは・・・】

青森ねぶた祭の起源は、七夕祭りの灯籠流しであろうといわれていますが、定かではありません。奈良時代（710年～794年）に中国から渡来した「七夕祭」と、古来から津軽にあった習俗と精霊送り、人形、虫送り等の行事が一体化して、紙と竹、ローソクが普及されると灯籠となり、それが変化して人形、扇ねぶたになったと考えられています。



【盛岡さんさ踊りとは・・・】

昔、盛岡城下では鬼が悪さを繰り返し、困った人々は三ツ石神社に悪鬼退治を祈願しました。神様に捕られた鬼は「もう悪いことはしません」と、大きな石に鬼の手形を押して約束し遠くへ逃げていきました。喜んだ人々が石のまわりを「さんささんさ」と踊ったのがさんさ踊りの始まりであり、「岩手」の由来ともいわれています。



【秋田竿燈まつりとは・・・】

竿燈の原型は、江戸時代中期に秋田藩の久保田城下で七夕まつりの前夜に真夏の睡魔や邪気を払い五穀豊穡を祈る行事「ねぶり流し」が発祥といわれています。歴代の藩主によってこの行事は厚く庇護され、その後、眠り流し、七夕祭などと呼び名を変え、明治時代には竿燈と書いて「ねむりがし」と読むなどして伝承されてきました。「かんとう」の呼び名は1931年に秋田市竿燈会が発足して認知され始め、現在では広く定着しています。



【津軽三味線とは・・・】

津軽三味線は津軽地方（現在の青森県西部）で成立し、主に津軽地方の民謡伴奏に用いられますが、現在では独奏楽器としても注目を集めています。撥を叩きつけるように弾く打楽器奏法と、テンポが速く音数が多い楽曲に特徴があります。国内外問わず演奏されており、各地で全国大会などが開催されています。



【そばっち】



®わんこきょうだい

岩手の名物「わんこそば」をモチーフにした岩手県のPRキャラクター「わんこきょうだい」。「そばっち」はそのメインキャラクターです。他にも「こくっち」や「とぶっち」などのキャラクターがいます。ちょっとした表情の違いやお椀の中身の違いなどをお楽しみください。